

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.52 2017年12月

開放式脳室ドレナージ回路使用時の 注意について

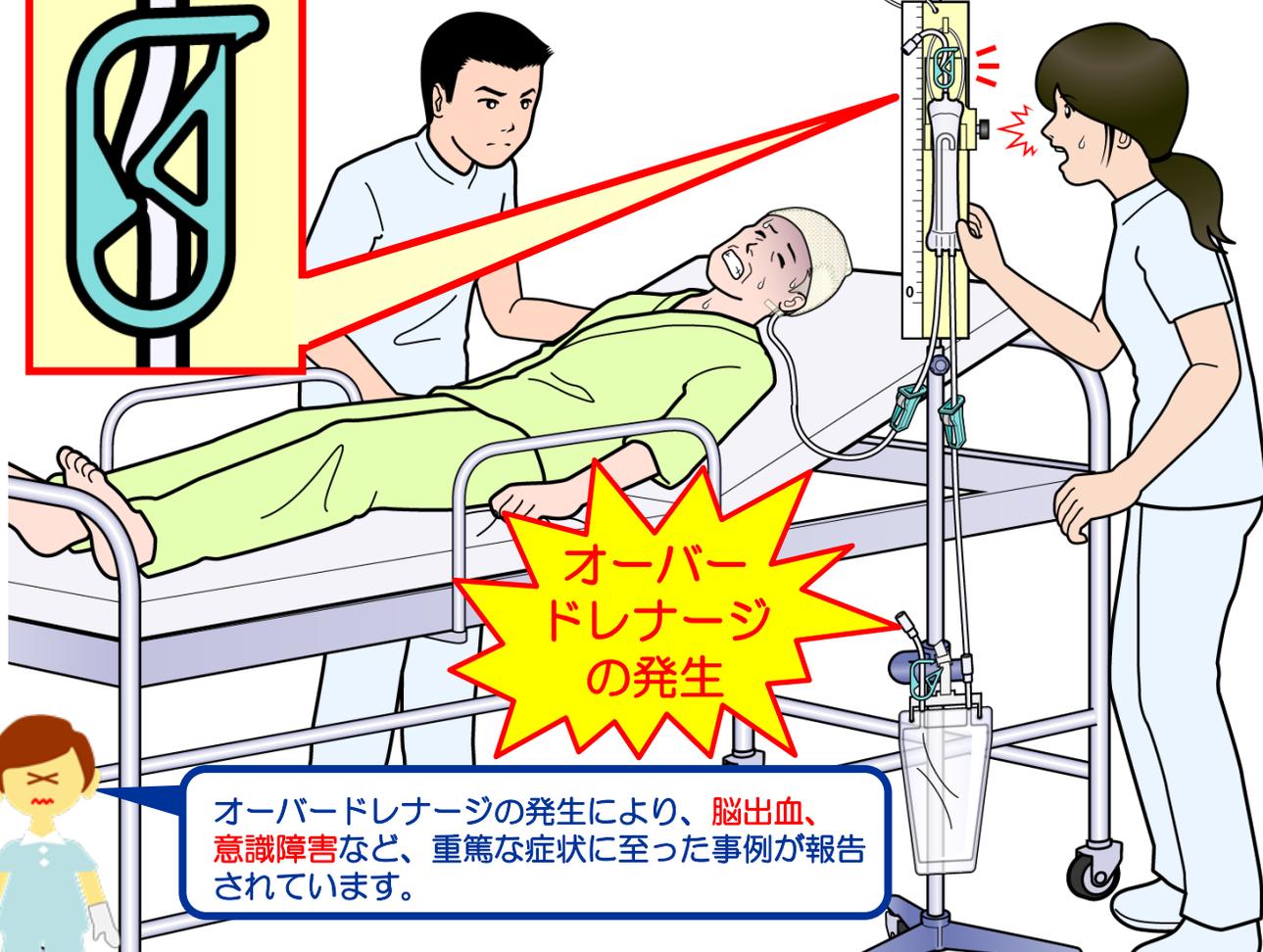
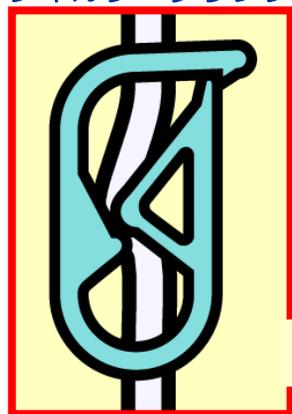
POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例1) 体位変換後、ドリップチャンバーのフィルタークランプを開放し忘れたところ、オーバードレナージが発生し、患者が頭痛と吐き気を訴えた。

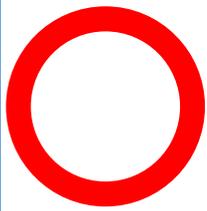
1 開放式脳室ドレナージの取扱い時の注意点 (その1)

- 体位変換後は、すべてのクランプが開放されているか必ず確認すること。

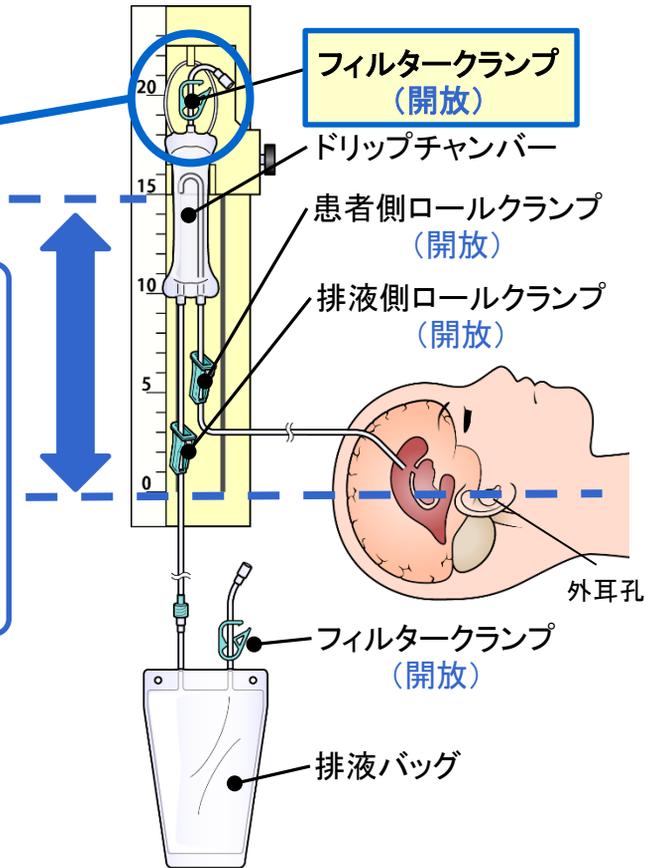
フィルタークランプ



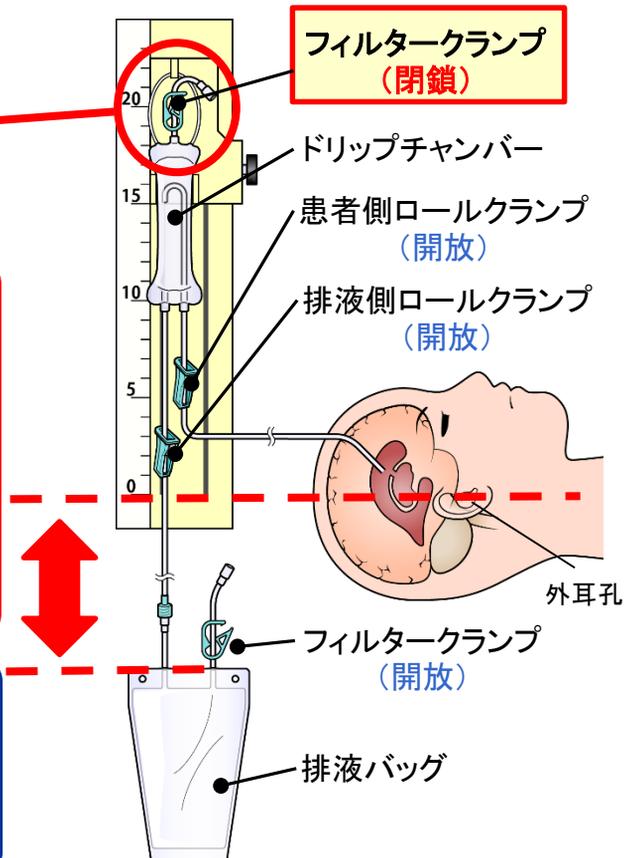
開放式脳室ドレナージ回路のしくみ



ドリップチャンバー
の高さで
頭蓋内圧を調整



ドリップチャンバーの
フィルタークランプ
の閉鎖により
サイフォニング
現象が発生



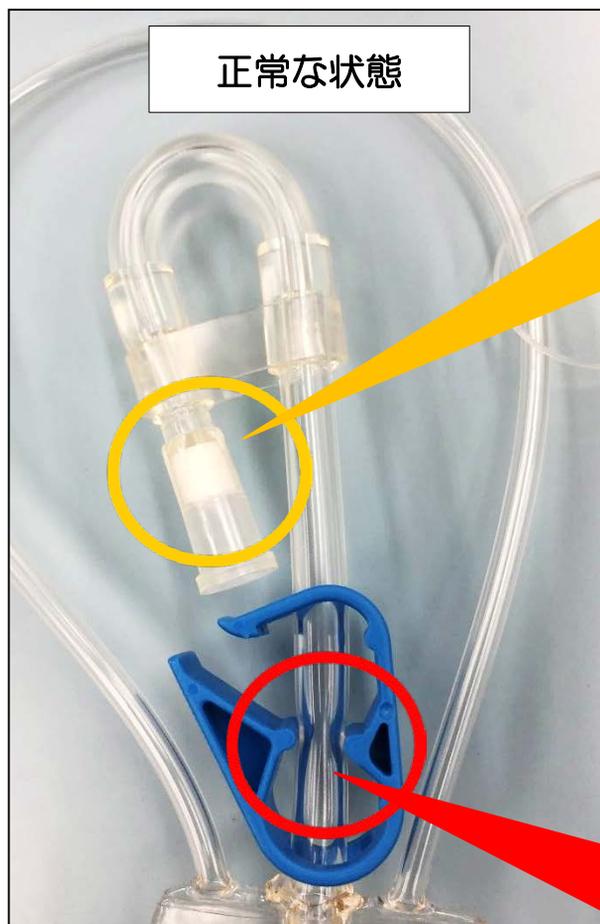
外耳孔と排液バッグの落差分
だけ陰圧が働き、オーバードレナージになるおそれ
があります。

(事例2) 清拭終了後、クランプを開放したが、ドリップチャンバー上部のフィルターが脳脊髄液で濡れていたため、オーバードレナージが発生し、患者が頭痛を訴え脳出血を認めた。

(事例3) 移動後にクランプを開放したが、ドリップチャンバー上部にあるチューブが潰れていたため、オーバードレナージが発生し、患者に出血・麻痺を認めた。

2 開放式脳室ドレナージの取扱い時の注意点 (その2)

- 清拭終了後、移動後は、フィルターの濡れやフィルタークランプのチューブの潰れがないことを確認すること。



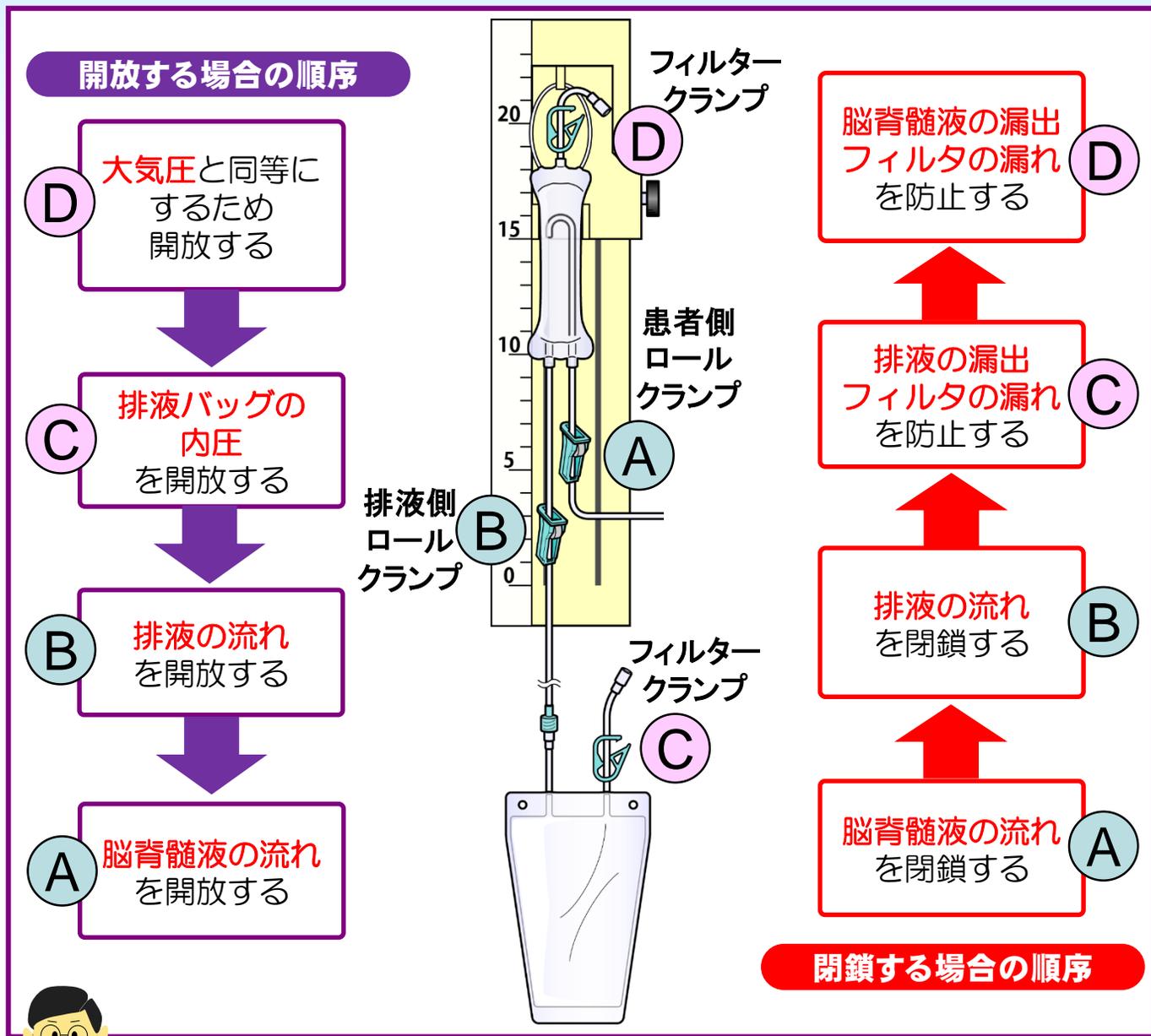
写真提供：フォルテ グロウ メディカル株式会社

フィルターの濡れやチューブの潰れは、サイフォニング現象を発生させるおそれがあります。



開放式脳室ドレナージ回路の正しい操作手順

- 各クランプの機能、ドレナージ回路のしくみを理解した上で、回路の操作をすること。



フィルタークランプの開放忘れを防ぐために、回路のしくみや管理方法について教育を行い、チェック方法等の院内手順を再確認してください。

本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び医薬品、医療機器の品質及び安全性の確保等に関する法律に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。

どこよりも早くPMDA医療安全情報を入手できます！
登録はこちらから。

